

子どもたちの未来は、
想像力のエンジンが
解決してくれる！

巻頭特集

インタビュー

(落語家)

林家 たい平
さん

教壇はステージ、
先生はスター

先生は落語家と同じだと思っていんじゃないかと思うんですね。だって毎回お客さんが30人とか40人とかいて、みんなが見られているわけですよ。そこでつまらないことやっていたら、だれも見向きもしてくれませぬ。「どれだけ今日は、子どもたちは僕のことを見てくれるかな」とか「どれだけ楽しめることができるかな」と、先生の人間的な優しいところ。だったり強いところ。だったり格好いいところ。だったり、毎日違う先生の姿をちよつとずつ見せるのがいいと思います。勉強を教えているんじゃないかと、ステージに上がっているという意識を少しだけでもと違ってくる気がします。

昭和39年 埼玉県秩父市生まれ。一般社団法人落語協会理事。
昭和63年 林家こん平に入門
平成4年 ニッポン昇進 以後、数々の演芸コンクールで優秀な成績を収める。
平成12年 真打昇進
現在 落語を各地で公演するかわたら、母校武蔵野美術大学で客員教授も務める。
「笑点をはじめテレビでも大活躍のたい平師匠に、小学生や学校の先生へのメッセージを語っていただきました。」

小学生のころって、 どんな子どもでしたか？

奥手でもやんちゃでもなかったです
ね。“ひょうきんもの”というのがいちば
んあたっているでしょうか。ムードメー
カーのような存在であったと思います。
勉強はそれほど得意ではありませんでし
たが、国語と、ものを作ったりする図工
が好きでした。体育は得意でなかったの
で、体育の授業はあまり気持ちが進みま
せんでしたね。



小学6年生、臨海学校に行ったとき（手前正面）

国語は、文章を読んでその内容や話の
先が分かっていくことがよかったですね。
テストでも何でも、その場で一生懸命考
えれば、答えが出てくるというのがいい
と思っっている点です。算数とかは計算式
とかを覚えて挑まなければいけません、
国語って純粹にその場で言葉と向き合う
と、それなりの自分の答えが出てきたの
がよかったのだと思います。それがたと
え正解ではなくても、自分の頭の中でそ

の場であったことが導き出せるというこ
とですね。

落語家になるきっかけ、 そして、落語の魅力とは？

美術の先生になりたくて、美術大学に
入り、落語研究会に入りながらグラ
フィックデザインの勉強をしていました。
特に落語に思いがあったわけではありま
せん。なかなか自分の表現というものが
見つからなかったのですが、大学3年生
のときに下宿で課題を制作しているとき
にラジオから聞こえてきたのが、先代の
柳家小さん師匠の『粗忽長屋』という落
語で、そのときに初めてしっかりと落語に
向き合った、向かい合ったという感じだ
です。で、そのときの落語が、本当にすこ
いと思えました。言葉しかラジオから聞
こえてこないのに、何でこんなに情景や
風景のすべてが想像できて、こんなに笑
えてこんなに温かい気持ちになれるんだ
ろう。紙に残すだけがデザインの表現では
なくて、言葉で人の心の中に表現するこ
ともデザインかなと思えました。そこから
落語にすごく興味をもち始めたんですね。

落語家になる決意 大学4年生のときの“一人旅”

落語という表現に魅力を感じてはいま
したが、決心がつかなかったため、大学
4年の春に旅をしようと思ひ立ちました。
目的は三つ。一つは自分を追い込んでみ



インタビュー



一人旅の途中、石巻日和山にて

よう、また一つは自分はどういう人間な
のか見つめ直そう、さらに一つは落語つ
て仕事がどんな仕事なのか見てみようと思
ったのです。

旅に出るときは、下駄をはいて、さら
しを買ってきて自分で禪ぜんを作って、母親
の着物を男仕立てに直してもらいました。
後ろには風呂敷包みで禪の替えを入れ、
それを背負って、『落語一人旅』って自
分で書き、2席だけ落語を覚えて上野か
らスタートしたんですね。15日間の旅で
したが、最初の5日間は恥ずかしさが先
に立ってしまい何もできないままです。
した。これでは何の意味もない、しっか
り落語に向き合おうと、仙台に着いて老
人ホームなどいろんな施設に電話をかけ
まくり、数件から了解をいただきました。
その一件が石巻の「万生園」という施設
です。その老人ホームで落語をやらせて
いただいたとき、そこで見たこともない
ような笑顔をとくさん思いました。なん
ていい仕事なんだろうと思ひました。人
を喜ばせに、笑わせに行ったらつもりが、
こんなにたくさんの笑顔をもたらして帰って

くるといっすごくいい仕事だと思ひました。

今の夢は一人でも多くの人に 落語の魅力を！

僕は落語に出会ったことで人生がすこ
く豊かになったんですね。それは、落語
家になったから人生が豊かになったので
はなく、もしも落語家になっていなく
ても、落語に出会ったからこそだと思っ
たですよ。例えば、そのまま会社員になっ
たときに会社でうまくいかないことが
あったとか、人間関係に悩んでいるとか、
恋愛で躓いたとかありますよね。そんな
ときに、この気持ちはコンサートに行っ
て発散しようとか、この気持ちは映画
を見て満たされようとか、これはクラブ
に行つて踊ろうとか、人によって思うは
ずです。そういう一つに『落語』という
引き出しがあれば、この気持ちは今日な
んだらう、あつ、寄席に行つて落語を
聞いて笑おう。それなら何か、いろんな
ことが吹き飛ばふんじゃないか。その引
き出しがあるかないかで、人生の豊かさ
が大げさでなく変わってくると思うん
です。僕は大学3年のときに出会えた。だ



DVD「林家たい平のドラ落語」
(小学館)

から一人でも多くの人に僕と同じように落語に出会ってほしいと思うんです。

僕が今、映画を作ったり歌のCDを出したりしているのは、全く落語と接点がない子どもたちや若い人たちがこっちを向いてくれるきっかけづくり。なるべく多くの人が落語に出会うために自分に何ができるかを、これからもずっと考えていきたいと思っています。



企画・主演の映画ポスター(2014年8月上映)

子どもたちよ 想像力のエンジンを回せ!

子どもたちに落語を聞いてほしいのは、落語を通して想像力が育つはずだと思っているからなんです。僕たち大人になつた人間が解決できないことは、これから子どもたちが想像力を駆使して、いろんな問題を解決してくれるんじゃないか。世界で行われている戦争も、どっちにとってもいいことがない、罪のない人たちが何にも関わり合のない人たちの命が奪われていく、そこに想像力を働かせれば、どっちにとってもいいことがないなら、戦争なんてやめたほうがいい

よね。って思う。そのようにして想像力で阻止できますよね。地球環境破壊にしても、想像力がない人は飲み残しの牛乳なんかを目の前で捨てていって、目の前から消えれば地球からなくなってしまうたと思ってしまうけど、想像力を駆使すれば、それは下水処理場に行つて水になるためには、プール何杯分もの水が必要で、電気も必要で、でも本当の水には戻らないものが海に注がれていく。だったらどうやったら環境破壊がなくなるかといえ、自分にできることを想像するんです。飲み残しをしないこと、飲めるだけついで全部飲むっていうふうに、最後の最後まで行き着く先を想像することによって、環境破壊もなくなる。いじめの問題でも想像力のエンジンを回して、いじめられている人の気持ちを想像する。自分の側でなく、相手の側に立ち、相手の心と寄りそつて見えてくるものが必ずある。相手の気持ちを想像したら、その時点ですごく寂しいだろうな、それにいじめられているってお父さんお母さんが分かったときに、お父さんお母さんの気持ちはどうだろう、もし自分がいじめていることが自分の両親に知れたら、どんな気持ちになるだろうと、そこに想像力のエンジンを回すことで、じゃあ、誰もよいことないな。って分かり、いじめというのもなくなくなつてくるかもしれない。

その想像力のエンジンを回す練習になるのは、経験を積むこと体験を積むことと、もう一つは落語かなあと。僕ももっと小さいころから落語に出会っておけば

落語家

林家 たい平さん

よかったと今さらながら思いますけれど、今から子どもには戻れないので、これから出会う子どもたちには一人でも多く“こんな世界があるよ”っていうことに気がついてもらいたいですね。

小学校の先生に メッセージを!

クラス一人ひとりの子どもたちに“ちゃんと先生は向き合っているよ”という気持ち・思いを届けてあげるつもりで接してほしいと思います。30人がひと塊ではなくて、30人の一人ひとりがみんないるんな個性があつて、いろんな思いがあるのですから。向き合ってくれる時

間が1秒でもあるだけで、あつ、私はこの30人の中の30分の1じゃないんだ、一対一なんだ!“という関係が、すごく先生と子どもたちの信頼関係を密にしてくれる気がするんですね。

そして、先生として尊敬されることよりも、一人の人間として、人生の先輩として尊敬される人であつてほしい。人間的にみんなそれぞれいいところも悪いところもあるので、そういうところをしっかりと子どもたちに見せてあげながら、でもあの先生、ああいうところ格好いいよね“とか”あれは僕にはできないことだな“とかいう、どこか一つ格好いい先輩であるところを見せてあげられるといいのかなと思います。

